

福島安正関係文書目録

2021年7月

国立国会図書館憲政資料室

目録・最新の概要情報はウェブサイトに掲載しています

国立国会図書館リサーチ・ナビ「憲政資料室の所蔵資料」

(<http://rnavi.ndl.go.jp/kensei/>)

凡例

- 作成者・年代等で、推定したものには〔 〕を付した。
- 合綴のために付いていたホッチキス針を除去した（目録内への注記は行っていない）。
- 数量について、書簡や電報は通で数えた。罫紙に綴ってある形態のものについては綴や枚で数えたものがある。
- 画像の項目に「あり」と記載のある資料は、国立国会図書館デジタルコレクションに掲載している。

本目録は憲政資料室が第1次受入分を大江洋代氏（国立国会図書館非常勤調査員）に、第2次受入分を季武嘉也氏（国立国会図書館客員調査員）に依頼して作成した。

福島安正関係文書

第1次受入分

- 1. 福島安正宛書簡（資料番号1～28）
- 2. 福島安正書簡（資料番号29～40）
- 3. 第三者間書簡、書簡収納封筒（資料番号41～43）
- 4. 日記・ノート（資料番号44～48）
- 5. 著作（資料番号49～52）
- 6. 書類
 - 6.1 朝鮮・清国出張（明治15年）（資料番号53）
 - 6.2 日清戦争（資料番号54～57）
 - 6.3 日清戦後
 - 6.3.1 対清工作（資料番号58～64）
 - 6.3.2 その他（資料番号65～66）
 - 6.4 北清事変
 - 6.4.1 各国軍との交渉（資料番号67～73）
 - 6.4.2 福島受信電報・発信電報（資料番号74～77）
 - 6.4.3 その他（資料番号78～80）
 - 6.5 日露戦争（資料番号81）
 - 6.6 日露戦争後（資料番号82～85）
 - 6.7 後備役編入後（資料番号86～87）
 - 6.8 履歴資料（資料番号88～93）
 - 6.9 書類（資料番号94～100）

第2次受入分

- 1. 書簡（資料番号1001～1017）
- 2. 書類（資料番号1018～1022）
- 3. 日記（資料番号1023）
- 4. その他（資料番号1024～1029）

福島安正関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
第1次受入分						
1. 福島安正宛書簡 (資料番号1~28)						
1	内山小次郎書簡	内山小次郎 (少将)	福島安正	明治40年2月19日	数量 1綴 内容 ロシアより。戦後における対日スタンス、軍制改革状況、今後10年は日露開戦はないとの見通し。 記述法 ペン 備考 封筒なし	
2	大久保豊彦書簡	大久保豊彦	福島安正	明治40年4月13日	数量 1綴 内容 南満鉄道に於ける契害、寛城子停車場に於ける契害、撫順炭田に伯仲する財源 記述法 ペン 備考 封筒なし	
3	大久保豊彦書簡	大久保豊彦	福島安正	1月22日	数量 1綴 内容 安東県における軍閥抗争、同県商準局巡警(利権回収、朝鮮人状況)等 記述法 ペン 備考 封筒なし	
4	大久保豊彦書簡	大久保豊彦	福島安正	2月12日	数量 1綴 (4枚) 内容 ロシアの黒竜江省鉱山還付について 記述法 墨書 備考 封筒なし 合綴注記 資料番号4~5はもと合綴	
5	大久保豊彦書簡	大久保豊彦	福島安正	4月12日	数量 1綴 内容 満韓における日本の木材廠経営が頓挫。清韓人の伝統的な材木業の紹介、日清合同森林会社の鴨緑江木材確保策。 記述法 ペン 備考 封筒なし 合綴注記 資料番号4~5はもと合綴	
6	大久保豊彦書簡	大久保豊彦	福島安正		数量 2枚 内容 安東県兵備、警察状況 記述法 ペン 備考 封筒なし	
7	大久保豊彦書簡	大久保豊彦	福島安正		数量 1枚 内容 浦塩方面への間道を探偵していた日本人が捕縛されたことにつき第一報 記述法 ペン 備考 封筒なし	
8	大久保豊彦書簡	大久保豊彦	福島安正		数量 1綴 内容 「日本人トシテ満洲経営之方法」 記述法 ペン 備考 封筒なし	
9	加藤正義書簡	加藤正義	福島安正	3月27日	数量 1通 内容 築地瓢屋にて蔡公使等と支那雑談会議開催につきお誘い 記述法 墨書 備考 封筒なし	
10	高野棕一・知秀書簡	高野棕一・知秀	福島安正	明治22年1月1日	数量 1通 (2枚) 内容 年賀状 記述法 墨書	

福島安正関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
11	寺西秀武書簡	寺西秀武 (少佐)	福島安正	2月15日	数量 1綴 (8枚) 内容 北京政府の官制改革と袁総督の関係、陳兵処等陸軍部内状況、袁の前途を憂える者 記述法 墨書 備考 封筒なし 合綴注記 資料番号11~12はもと合綴	
12	寺西秀武書簡	寺西秀武 (少佐)	福島安正	4月3日	数量 1綴 (3枚) 内容 段祺瑞動静、陸軍部の無能、中国官界と商業の関係 記述法 墨書 備考 封筒なし 合綴注記 資料番号11~12はもと合綴	
13	寺西秀武書簡	寺西秀武 (少佐)	福島安正	4月4日	数量 1枚 内容 段祺瑞天津、北京行をめぐる袁世凱の策動解説 記述法 墨書 備考 封筒なし	
14	寺西秀武書簡	寺西秀武 (少佐)	福島安正	4月11日	数量 1綴 (3枚) 内容 保定府より。貴胃学堂、王公講習所の内幕を探る、生徒の状況、在学中の親王らの現状認識、宮廷情報。 記述法 ペン 備考 封筒なし	
15	寺西秀武書簡	寺西秀武 (少佐)	福島安正	11月22日	数量 1綴 (3枚) 内容 清国人から得た情報 (蔭昌、袁世凱等の陳兵処をめぐる陸軍部内紛状況) 記述法 墨書 備考 封筒なし	
16	寺本婉雅書簡	寺本婉雅	福島安正	明治40年1月3日	数量 2枚 内容 甘肅省より。ダライラマ還蔵をめぐる、ダライラマ、北京政府、イギリスの交渉について。 記述法 墨書 備考 封筒なし 合綴注記 資料番号16~17はもと合綴	
17	寺本婉雅書簡	寺本婉雅	福島安正	〔明治40年〕1月16日	数量 2枚 内容 甘肅省より。ダライラマ還蔵の時期、ダライラマの外交交渉、ドイツ人地理学者とダライラマとの会見。蘭州黄河鉄橋工事。中国ではドイツ商権盛ん。 記述法 墨書 備考 封筒なし 合綴注記 資料番号16~17はもと合綴	
18	寺本婉雅書簡	寺本婉雅	福島安正	明治40年3月3日	数量 1綴 (3枚) 内容 甘肅省より。ダライラマ還蔵続報、ダライラマの下の有力官吏は清露両党の色分、露国党についての詳報、波多野春作の状況。 記述法 墨書 備考 封筒なし	
19	トクトミ電報	トクトミ	福島安正	大正4年1月30日	数量 1通 内容 小生故郷御経由の段、光栄の至り 記述法 印刷[カーボン (手書)] 用紙 電報用紙 備考 封筒なし	

福島安正関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
20	難波冽書簡	難波冽	福島安正		数量 1枚 内容 揮毫願い 記述法 墨書 備考 封筒なし	
21	野村岩蔵書簡	野村岩蔵	福島安正	(明治40年)	数量 1枚 内容 島川吉林領事が赴任の際、清国側からあてがわれた宿舎をめぐる、ロシア領事と島川とのさやあて 記述法 墨書 備考 封筒なし 合綴注記 資料番号21～23はもと合綴	
22	野村岩蔵書簡	野村岩蔵	福島安正	3月23日	数量 1綴 内容 間島への邦人入植をあおる朝日新聞に警戒を促すことを提案。日本人が注目していることが分かれば、清国が利権回収を名目に進出するだろうとの見立て。 記述法 墨書 備考 封筒なし 合綴注記 21～23もと合綴	
23	野村岩蔵書簡	野村岩蔵	福島安正	3月30日	数量 1綴 内容 吉林省報告。ロシア人の教唆をうけた清国官憲の日本人に対する態度等を報告。 記述法 墨書 備考 封筒なし 合綴注記 資料番号21～23はもと合綴	
24	福島貞子書簡	福島貞子	福島安正	(明治25年) 4月24日	数量 1通 内容 ご希望の帰途大旅行は政費節減となったが、ロシア、シベリア、蒙古、満洲等旅行で帰国と神尾氏から聞いた、帰朝の日を待つ 記述法 墨書 備考 封筒なし	
25	福島貞子書簡	福島貞子	福島安正	5月14日	数量 1通 内容 福島から便りのないこと心配、子供たちも心待ちにしている 記述法 墨書 備考 封筒なし	
26	福島貞子書簡	福島貞子	福島安正	8月7日	数量 1通 内容 子ども一同無事、正義大試験は病気で受験不能、二郎は優等 記述法 墨書 備考 封筒なし	
27	福島貞子書簡	福島貞子	福島安正		数量 1通 記述法 墨書 備考 封筒のみ	
28	福島貞子書簡	(福島安正)	(福島安正)	明治24年	数量 1通 記述法 墨書 備考 封筒のみ。駐独の福島宛に、貞子が手紙を書きやすいよう、福島が作成した封筒カ。福島宛貞子書簡の封筒と推測される。	
2.福島安正書簡 (資料番号29～40)						
29	福島安正書簡	福島安正	福島貞子	(明治17年) 2月11日	数量 1通 内容 北京より。家族を心配。 記述法 墨書	

福島安正関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
30	福島安正書簡	福島安正	福島貞子	〔明治17年〕2月25日	数量 1通(1綴) 内容 北京より。連夜の各国公使館の夜会リスト。毎週手紙がほしい。 記述法 墨書 備考 封筒2枚	
31	福島安正書簡	福島安正	福島貞子	〔明治17年〕4月2日	数量 1通(2枚) 内容 北京より。家族を心配。 記述法 墨書	
32	福島安正書簡	福島安正	福島貞子	〔明治17年〕4月8日	数量 1通(1枚) 内容 北京より。家族を心配、自身の体調。 記述法 墨書	
33	福島安正書簡	福島安正	福島貞子	〔明治17年〕4月16日	数量 1通(2枚) 内容 北京より。公使館の出費、大蔵省は頗る困難。 記述法 墨書	
34	福島安正書簡	福島安正	福島貞子	〔明治17年〕4月22日	数量 1通(1枚) 内容 北京より。帰朝迫る。 記述法 墨書	
35	福島安正書簡	福島安正	福島貞子	〔明治17年〕4月23日	数量 1通 内容 北京より。 記述法 墨書 備考 封筒のみ	
36	福島安正書簡	福島安正	福島貞子	〔明治17年〕6月5日	数量 1通(3枚) 内容 北京より。5月2日以来便りなく甚だ心痛。 記述法 墨書 備考 封筒2枚	
37	福島安正書簡	福島安正	福島貞子	〔明治17年〕7月8日	数量 1通(2枚) 内容 北京より。強情は世の中に最も必要。50巻の書籍編纂が終わる見込み。土産見計らい閉口。 記述法 墨書	
38	福島安正書簡	福島安正	福島貞子	〔明治17年〕7月23日	数量 1通(1枚) 内容 北京より。太って去年のズボンが入らない。安南事件再発、一層繁忙。 記述法 墨書 備考 封筒2枚	
39	福島安正書簡	福島安正	福島貞子	〔明治17年〕10月9日	数量 1通 内容 前欠。封筒の表書についての希望。 記述法 墨書 備考 封筒は福島正一宛	
40	福島安正書簡	福島安正	福島貞子	〔明治17年〕11月13日	数量 1通(2枚) 内容 北京より。磯野大尉帰朝、同人に土産をたくす。 記述法 墨書	
3.第三者間書簡、書簡収納封筒(資料番号41~43)						
41	立花小一郎書簡	立花小一郎	青木宣純	6月12日	数量 1通 内容 安藤を宮保に引き合わせる、山根も翻訳局訳出一部担当、/松本の用い方につきお願い 記述法 墨書 備考 赤鉛筆で書き込み有	

福島安正関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
42	封筒「書簡 寺西秀武 大久保豊彦 寺本婉雅 野村岩蔵」				数量 1枚 記述法 墨書 合綴注記 もと資料番号1~3、5~8、11~18、21~23、29~30、44~48、50~52、95~99を収納カ	
43	封筒「北京ヨリノ手紙 十四通入」				数量 1枚 記述法 墨書 備考 裏に「渡辺義彦」と印刷してある。 合綴注記 もと資料番号28~40を収納	
4.日記・ノート（資料番号44~48）						
44	日記	福島安正		明治36年5月1日~10月6日	数量 1冊 記述法 ペン	あり
45	大正三年 九月起 十二月止 日誌	福島安正		大正3年9月1日~15日	数量 1冊 付属資料 (1) 輸出燃料月別表、1枚 / (2) 宮口満鉄貯炭場石炭輸出概況表、1枚 記述法 ペン 用紙 ノート (Lion) 備考 表紙には九月起、十二月止とあり、日記としての記載は9月1日~15日。スケジュールは12月まで記載。(付属資料はもと最終頁に挟み込み)。	あり
46	〔漢詩練習帳〕	福島安正		〔明治43年〕	数量 1冊	
47	addresses	福島安正			数量 1冊 内容 住所録 備考 最終頁に「約束の部」という記載あり。	
48	〔海外における金銭出納帳〕	福島安正			数量 1冊 内容 清国行入費日記他、欧米各国に滞り時のもの	
5.著作（資料番号49~52）						
49	印度紀行附図			〔1887〕	数量 1枚 記述法 ペン 備考 彩色	
50	隣邦兵備略 第三版	福島安正		〔明治22年〕	数量 3綴 記述法 ペン 備考 「隣邦兵備略第三版次 卑見」、「隣邦兵備略第三版巻之一 清国之武 第一編八旗」、「弾薬箱之図」の原稿。	
51	日本全国騎馬旅行記 陸軍大将福島安正男述	〔福島安正〕		〔大正3年~4年〕	数量 1綴 内容 大正3~4年の旅行。原稿と活字版を綴ったもの。 付属資料 封筒、1枚 記述法 ペン、印刷 備考 原稿は福島とは異筆で書かれている	
52	〔日清戦後から日露戦後における日清関係について〕	福島安正			数量 3枚 内容 清国武学生の日清招致の経緯、北清事変、増加する留学生、日露戦争での協力、帰国留学生の役割、利権回収運動の高まり、新軍建設 記述法 ペン	
6.書類						

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
6.1朝鮮・清国出張 (明治15年) (資料 番号53)						
53	〔旅費請求書〕	福島安正	大山巖(参謀総長)	明治15年9月18日	数量 1綴 内容 旅費受領証(事由、金額)、俸給受領証、朝鮮行実費計算書からなる 記述法 墨書	
6.2日清戦争(資料 番号54~57)						
54	師団命令	野津道貫(第五師団長)		(明治27年)10月2日	数量 1枚 内容 平壤より。 記述法 印刷[蒟蒻版]	
55	〔電報綴〕【ほか一括】					
55-0	〔電報綴〕				数量 1綴	
55-1	福島中佐二与ル訓令	山県有朋(第一軍司令官)		(明治27年)10月30日	内容 九連城より。大狐山物資押収命令 他。 記述法 鉛筆 用紙 電報用紙	
55-2	第三師団命令	桂太郎(第三師団長)	五龍背枝隊長	(明治27年)10月30日	内容 九連城より。自今福島中佐の指揮下に入るよう。 記述法 鉛筆 用紙 電報用紙	
55-3	〔命令〕	桂(中将)	福島安正	(明治27年)10月31日	内容 安東県より。騎兵追加投入。 記述法 鉛筆 用紙 電報用紙	
55-4	物資概算調書	(福島安正)		(明治27年)	内容 米、大麦等食糧について 記述法 鉛筆	
55-5	河川偵察ヲ任セラレシリ將校斥候ノ報告	柴田(中尉)		(明治27年)	内容 小舟を抑えたことなど 記述法 鉛筆	
55-6	福島安正電報	福島安正	田本(中佐)	(明治27年)11月26日	内容 安東県より。協議事項あり。 記述法 墨書 用紙 兵站電信送達紙	
55-7	福島安正電報	福島安正	上田(参謀長)	7月5日	内容 その地のことを済ませ、すぐ帰れ 記述法 印刷[カーボン] 用紙 日本政府電報送達紙	
55-8	糧食之部	(福島安正)			内容 小豆153石 他 記述法 鉛筆 用紙 電報用紙 備考 電報用紙を利用したメモ	
55-9	馬糧之部	(福島安正)			内容 大豆32石 他 記述法 鉛筆 用紙 電報用紙 備考 電報用紙を利用したメモ	
55-10	牛島電報	牛島(歩兵大佐)	大迫少将(第五旅団長)	(明治27年)11月21日	内容 大東溝。福島中佐は岫巖からすぐに帰団すべし。 記述法 鉛筆	
55-11	軍参謀長電報	軍参謀長	福島安正	(明治28年)4月1日	内容 海城より。貴官の申越しの事許可。 記述法 墨書、印刷[カーボン] 用紙 日本政府電報送達紙	

福島安正関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
55-12	小川又次電報	小川（少将）	福島安正	〔明治28年〕3月31日	内容 海城より。その地のごと安心。 記述法 印刷[カーボン] 用紙 日本政府電報送達紙	
55-13	小川又次電報	小川（軍参謀長）	福島安正	〔明治28年〕4月3日	内容 海城より。営口偵察勝浦について 記述法 印刷[カーボン] 用紙 日本政府電報送達紙	
55-14	上原勇作電報	上原（参謀副長）	福島安正	〔明治28年〕4月1日	内容 20日まで休戦 記述法 印刷[カーボン] 用紙 日本政府電報送達紙	
55-15	上原勇作電報	上原（参謀副長）	福島安正	〔明治28年〕4月5日	内容 三宮はいかなる任務か 記述法 印刷[カーボン] 用紙 日本政府電報送達紙	
55-16	上原勇作電報	上原（参謀副長）	福島安正	〔明治28年〕4月1日	内容 英国領事の電信は認可 記述法 墨書 用紙 第六師団野戦電信隊送達紙	
55-17	〔拝謁呼び出し状〕	真鍋斌（陸軍大臣副官）	福島安正	明治28年5月12日	記述法 墨書 用紙 大本営野紙	
55-18	〔金洲丸出帆予定につき連絡〕	芦原（大尉）	福島安正	〔明治28年〕4月30日	内容 金洲丸は本日午後二時ごろ出帆予定だが、患者積載の都合により延期するかもしれない 記述法 墨書 用紙 大本営野紙	
56	〔戦時中雑綴〕 【ほか一括】					
56-0	〔戦時中雑綴〕				数量 1綴 付属資料 紙、1枚	
56-1	〔電報回送〕				内容 56-2の別紙。駐日英国公使から、駐清北京公使への電報回送願。電報内容は牛壮のヨーロッパ人が日本人によって営口を出ることを禁止されている。 記述法 鉛筆 用紙 清国製の野紙	
56-2	〔善後策指示〕	小川（第一軍参謀長）	福島安正	〔明治28年〕3月27日	内容 56-1の状況につき指示 記述法 墨書 用紙 第一軍司令部野紙	
56-3	〔参謀本部通牒〕	大本営陸軍部副官			内容 トルコよりメチジ―第三等勲章贈与 記述法 墨書 用紙 大本営野紙	
56-4	行軍予定			〔明治27年〕8月31日～9月17日	内容 元山支隊等 記述法 印刷[苜弱版] 用紙 第五師団司令部野紙	
56-5	軍行計画				内容 立見旅団等 記述法 印刷[カーボン]	
56-6	〔各隊総員〕				記述法 墨書 用紙 第五師団司令部野紙	
56-7	〔占領地住民への慰撫文〕				記述法 墨書 用紙 歩兵第五旅団司令部 備考 中文、修正あり	
56-8	〔命令〕				内容 遼陽方面、海城方面 記述法 墨書 用紙 第一軍司令部野紙	

福島安正関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
56-9	〔作戦意見書〕	福島安正		明治28年5月12日	内容 小川第一軍参謀長へ呈したものの写。第一軍は直隸平野に進軍すべきか 記述法 印刷[カーボン] 用紙 第一軍司令部野紙	
56-10	〔避難勧告〕	桂太郎	宣教師	1895年3月28日	記述法 墨書 用紙 第一軍司令部野紙	
57	証【ほか一括】					
57-1	証	小野亮一（第一軍金櫃部長）	福島安正	明治27年12月21日	数量 1枚 内容 領収書 記述法 墨書 用紙 軍司令部野紙 合綴注記 資料番号43-1～2はもと合綴	
57-2	支払証書	福島安正			数量 1綴 内容 口バ代、食用牛代、貧民救助代、支隊昼食代、嚮導雇人賞与、捕虜支那人賞与等費目と内訳 記述法 墨書 用紙 第五師団司令部野紙 合綴注記 資料番号43-1～2はもと合綴	
6.3日清戦後						
6.3.1対清工作（資料番号58～64）						
58	〔上海総領事からの報告〕	青木周蔵（外務大臣）	川上操六（参謀総長）	明治32年1月7日	数量 1綴 内容 清国兵士訓練、清国学生派遣について、湖広総督張之洞と交渉の状況 記述法 墨書 用紙 外務省野紙	
59	〔直隸の日本将校招聘計画〕	〔福島安正〕		〔明治34年〕2月10日～3月24日	数量 2枚 内容 青木中佐から参謀総長宛の将校派遣依頼等電報の写。日本の将校派遣反対するロシアの意見書、それらに対する福島のコメント。 記述法 ペン	
60	閩浙総督許応駟			〔明治34年〕12月5日～明治35年2月1日	数量 9枚 内容 各地の有力者（両江総督劉、湖広総督張、直隸総督袁、浙江巡撫任、安徽巡撫王、侍郎那桐、陶森甲、劉坤一、慶親王、陶大均）宛の書簡をまとめて筆写したもの 記述法 墨書 用紙 参謀本部野紙（筆搦板用）	
61	〔貴州が招聘する日本将校の俸給等について〕	〔福島安正〕		明治35年3月3日	数量 4枚 内容 招聘士官の勤務条件等についての清国側とのやりとりや合意書の写 記述法 ペン	
62	極秘 清国二関スル発信案控	〔福島安正〕			数量 2枚 記述法 墨書 備考 表裏表紙板のみ。59、61の表紙カ。	
63	封筒「明治三十二、三年頃清国関係」				数量 1枚 記述法 墨書 合綴注記 資料番号59,60,61,62,65,66,71,75,81,82,84をもと収納カ	

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
64	封筒「8、張総督宛ノ書簡 留学生ノ景況、9就学生ニ関シ 姚錫光宛書簡ニ通 福島部長」				数量 1枚 記述法 墨書 備考 封筒のみ	
6.3.2その他（資料番号65～66）						
65	従明治三十一年六月至全年十二月時事摘要	梶川（参謀本部 第二部大尉）		明治31年	数量 1枚 内容 日清、独清、露清、英清、仏清関係について月別にまとめたもの 記述法 ペン	
66	重要時事摘要 明治卅一年六月 明治卅二年六月	梶川（参謀本部 第二部大尉）		明治31年	数量 1枚 内容 米国陸海軍拡張、亜米利加縦貫鉄道 記述法 ペン	
6.4北清事変						
6.4.1各国軍との交渉（資料番号67～73）						
67	各国将校からの欧文書簡 合計27通				数量 27通 記述法 ペン	
68	極秘 機密外交作戦日誌			明治33年6月29日～8月3日	数量 1冊 内容 各国司令官、参謀の来訪や日々の作戦打合せ、各国と日本の戦闘行動、日本軍に対する各国軍の評価等を書き込んだ日誌 記述法 墨書 用紙 第五師団司令部野紙	
69	極秘 軍議摘要			明治33年7月20日～10月9日	数量 1冊 内容 各日における各国間の詳細な軍議内容 記述法 墨書 用紙 第五師団司令部野紙	
70	極秘 北進機密日誌			明治33年8月4日～8月28日	数量 1冊 内容 各国との作戦打合わせ、戦闘行動を書き込んだ日誌 記述法 墨書 用紙 第五師団司令部野紙	
71	〔作戦日誌 下書き〕			24日～28日	数量 2枚 記述法 鉛筆	
72	極秘 軍事摘要				数量 1枚 記述法 墨書 備考 表紙のみ	
73	封筒「団匪事変外人来信」				数量 1枚 記述法 墨書 合綴注記 もと資料番号67を収納カ	
6.4.2福島受信電報・発信電報（資料番号74～77）						

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
74	自明治三十三年六月起至全七月止命令綴			明治33年6月17日～7月7日	数量 1冊 内容 受信電報写。陸軍大臣から臨時派遣隊司令官の福島に宛てた命令・訓令、及び参謀本部調査臨時派遣隊編成要領書。 記述法 墨書 用紙 第五師団司令部野紙	
75	明治参拾参年九月廿七日以降着電綴			明治33年9月27日～34年5月24日	数量 1冊 内容 受信電報写。主に福島に宛てられたもの。山口第五師団師団長、柴中佐（北京）、由比少佐（東沽）、宇佐川大佐（北京）、石橋参謀長等からの命令や状況報告。 記述法 墨書 用紙 陸軍省野紙、第五師団司令部野紙	
76	極秘 発電簿自明治三十三年七月廿四日至全九月三日			明治33年7月24日～9月3日	数量 1冊 内容 発信電報写。福島から主に参謀総長にあてた電報。 記述法 墨書 用紙 第五師団司令部野紙	
77	明治三十三年九月二十八日以降発電綴 極秘			明治33年9月28日～	数量 1冊 内容 発信電報写。福島から参謀総長や次長等にあてた電報。 記述法 墨書 用紙 陸軍省野紙、第五師団司令部野紙	
6.4.3その他（資料番号78～80）						
78	鄭永昌書簡	鄭永昌（在天津領事）	福島安正	明治33年7月15日	数量 1通 内容 上海フハリスト、エイドアスソシエーションによる慰安について 付属資料 小田切天津領事宛ドクトル、タンレー書簡、1通 記述法 墨書 用紙 駐天津日本領事館	
79	〔入城列順序〕				数量 1枚 内容 編隊の列順を記したもの 記述法 印刷 [蒟蒻版]	
80	Règlements généraux d'administration pour la ville de Tientsin（天津における一般行政規則）				数量 1綴 記述法 印刷 備考 仏文	
6.5日露戦争（資料番号81）						
81	外務部ヨリ各国二通牒			[明治37～38年]	数量 1綴（3枚） 内容 米国政府が清国の中立違反を列挙したもの 記述法 墨書 用紙 清国駐屯軍司令部野紙	
6.6日露戦争後（資料番号82～85）						
82	遵奉改議選送游学生意見書				数量 1綴 内容 中国側の意見書 備考 中文	

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
83	青島の状況	福島安正	参謀次長	大正3年9月15日	数量 1綴 内容 洪水に伴うドイツ側の動き 記述法 ペン 用紙 陸軍野紙	
84	〔朝鮮反乱鎮圧のための軍隊配置案〕				数量 1綴 (3枚) 内容 憲兵配置の見直し、懐柔策の提案 記述法 墨書 用紙 陸軍野紙	
85	封筒「日清戦役中意見書アリ 韓国暴徒鎮圧二関スル意見」				数量 1枚 記述法 墨書 備考 宣旨の封筒、中身なし 合綴注記 もとの収納物不明	
6.7後備役編入後 (資料番号86～87)						
86	分会成立一覧表 【ほか一括】					
86-1	分会成立一覧表	帝国在郷軍人会本部		大正3年11月5日	数量 1枚 内容 連隊区毎の分会数 記述法 ペン	
86-2	〔支部長名簿〕	帝国在郷軍人会本部			数量 1枚 記述法 ペン	
87	福島大将閣下八代支部管内巡視予定日割表			1月13日～2月1日	数量 1枚 内容 各分会に配布されたもの 記述法 印刷[謄写(手書)]	
6.8履歴資料 (資料番号88～93)						
88	〔叙勲伝達〕	福島安正	上領頼方(参謀本部副官)	明治22年12月10日	数量 1綴 内容 勲六等瑞宝章について。品目受領証等が合綴。 記述法 墨書 用紙 参謀本部野紙	
89	福島陸軍少佐略伝			(明治28年)	数量 1綴 記述法 印刷 備考 シベリア単騎横断の記事を中心として第三者が記述したもの	
90	〔賞与・著述書籍・負傷〕	〔福島安正〕		(明治37年)	数量 1綴 内容 明治12年11月21日～明治37年12月11日までのトピックを記載 記述法 ペン	
91	明治三十四年七月十九日起 勲二等旭日重光章拝受以来履歴	〔福島安正〕		(大正3年)	数量 1綴 内容 明治34年7月19日～大正3年10月26日までの履歴 記述法 ペン	
92	慶応元年ヨリ明治四十年二至ル履歴	福島安正		(明治40年)	数量 1綴 内容 仕官前履歴、文官履歴、武官履歴 記述法 ペン	
93	封筒「履歴九点入」				数量 1枚 記述法 墨書	
6.9書類 (資料番号94～100)						

福島安正関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
94	〔名刺〕 劉学詢				数量 1枚 記述法 印刷	
95	〔北京場内清国兵編制〕				数量 1枚 内容 拠点と編成、兵員 記述法 墨書	
96	〔吉林清国兵編制〕	〔福島安正〕			数量 1枚 内容 拠点と編成、兵員 記述法 ペン	
97	Map to accompany the notes on Manchuria	Alexander Williamson [Rev.]; London; Smith, Elder & Co.			数量 1枚 記述法 印刷 備考 裏面に福島(カ)の字で「E.C.Tainton」と書き込みあり	
98	陸軍改正摘要	〔福島安正〕			数量 1綴 内容 ベンガル軍、トルコ軍、イギリス軍の騎兵編制 記述法 ペン 備考 前欠カ。隣邦兵備略をまとめる際に用いたものカ	
99	封筒「兵事関係七、八点在中」				数量 1枚 記述法 墨書 備考 LEGATION DU JAPON a BERLIN. 合綴注記 もとの収納物不明	
100	〔荷札〕	一誠堂			数量 1枚 記述法 墨書	
第2次受入分						
1.書簡（資料番号1001～1017）						
1001	〔書簡卷子本 一（福島安広・福島安正）〕				数量 1巻	
1001-1	福島安広書簡 福島安正宛	〔福島安広〕	〔福島安正〕	〔明治6年8月〕	数量 1通 内容 近況について。洋行云々。 記述法 墨書	
1001-2	福島安正書簡 福島安広宛	福島安正	福島安広	〔明治7年〕7月26日	数量 1通 内容 祖母様のご病状如何 記述法 墨書 備考 安正住所は「牛込下宮比九番地」	
1002	〔福島安正書簡卷子本 二〕	福島安正	福島安広	〔明治6年〕12月17日	数量 1巻（1通） 内容 江藤新平との出会いから司法省雇に就職などの近況 記述法 墨書	
1003	〔福島安正書簡卷子本 三〕	福島安正	福島安広	〔明治7年〕8月26日	数量 1巻（1通） 内容 送金、吉田氏教員、高野氏娘の件など近況 記述法 墨書 用紙 司法省野紙 備考 安正住所は「牛込下宮比九番地」	
1004	〔福島安正書簡卷子本 四〕	福島安正	福島安広	〔明治17年〕11月21日	数量 1巻（1通） 内容 清国より帰朝、写真すぐに送付の予定 記述法 墨書 備考 安正住所は「牛込揚場町十七番地」	

福島安正関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
1005	〔福島安正書簡卷子本 五〕	福島安正	福島安広	〔明治18年〕5月31日	数量 1巻(1通) 内容 今夏は帰省の予定。5月中の宴会一覧 記述法 墨書 備考 安正住所は「東京麹町隼町十六番地」	
1006	〔福島安正書簡卷子本 六〕	福島安正	福島安広	〔明治19年〕1月1日	数量 1巻(1通) 内容 定額5円送付す。官界激動するも陸軍には大地震なし 記述法 墨書 備考 安正住所は「麹町隼町十六番地」	
1007	〔福島安正書簡卷子本 七〕	福島安正	福島安広	〔明治19年〕5月5日	数量 1巻(1通) 内容 息子正一、慶應義塾に入塾、語学書を刊行 記述法 墨書	
1008	〔福島安正書簡卷子本 八〕	福島安正	福島安広	〔明治19年〕10月8日	数量 1巻(1通) 内容 インド旅行の様子、気温は室外169度に達す、シムラでの写真を送る 記述法 墨書	
1009	〔福島安正書簡卷子本 九〕				数量 1巻	
1009-1	福島運治身元引受証	野山義□(松本藩大属)	明治新塾	明治4年2月2日	数量 1枚 内容 福島運治(安正)の入塾に際し、その身元を引き受けるとの証書 記述法 墨書	
1009-2	福島安正書簡 福島安広宛	福島安正	福島安広	〔明治〕1月23日	数量 1通 内容 新年賀状 記述法 墨書	
1010	〔福島安正書簡卷子本 十〕	福島安正	福島安広	〔明治〕8月カ28日	数量 1巻(1通) 内容 親孝行について。金3円送る。 記述法 墨書 備考 安正住所は「牛込下宮比九番地」	
1011	〔福島安正書簡卷子本 十一〕	福島安正	福島貞子	〔明治10年〕7月28日	数量 1巻(1通) 内容 西南戦争戦況、本営は鹿児島に移る予定 記述法 墨書 備考 後欠	
1012	〔福島安正書簡卷子本 十二〕	福島安正	福島貞子	〔明治10年〕9月20日	数量 1巻(1通) 内容 連絡なく心配のところ、團々診聞、読売新聞杯で安心。あと二、三週間当地に滞在の予定。 記述法 墨書 備考 貞子は「牛込揚場町」、安正は「有馬温泉兵衛喜左工門方」。團々「診」聞はママ。	
1013	〔福島安正書簡卷子本 十三〕	福島安正	福島貞子	〔明治10年〕10月6日	数量 1巻(1通) 内容 賊軍平定したが、病氣療養とこれらのため当地に暫く滞在 記述法 墨書	
1014	〔福島安正書簡卷子本 十四〕	福島安正	福島貞子	明治29年3月21日	数量 1巻(1通) 内容 500円の為替の送付を準備せよ 記述法 墨書 備考 差出地はヒルマ「蘭克納」	
1015	〔和綴冊子〕				数量 1冊	
1015-1	セシルとの合意書	セシル、福島安正他		〔明治〕	数量 1通 内容 セシルと福島安正ら学生間の講義に関する合意書 記述法 ペン	

福島安正関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
1015-2	福島安正書簡 福島安広宛	福島安正	福島安広	(明治5年) 8月1日	数量 1通 内容 早稲田村に開校の蘭疇社は場所悪く学生集まらず、四谷の宗福寺に移転 記述法 ペン	
1015-3	紅海近辺地図	(福島安正)		(明治)	数量 1枚 記述法 ペン・墨書 備考 紅海近辺の地図を福島安正が写したもののか	
1015-4	福島安正書簡 福島安広宛	福島安正	福島安広	(明治6年) 4月7日	数量 1通 内容 4月4日より突然司法省に出仕、近々やめるつもり 記述法 墨書 備考 安正住所は「東京三大区麹町七丁目二十四番 司法卿地江藤新平邸」	
1015-5	福島安正書簡 福島安広宛	福島安正	福島安広	明治8年2月11日	数量 1通 内容 私邸番地細記入用なので至急報知ください 記述法 墨書	
1015-6	福島安正書簡 福島安弘宛	(福島安正)	(福島安広)	明治11年2月	数量 1通 内容 智磨平は無事、陸軍省より書籍を寄贈したので感謝状を拝受 記述法 墨書	
1015-7	写真(福島安正・斎藤)	J.C.Schaarwachter (ベルリン) [撮影]		明治21年5月	数量 1枚 内容 「左福島安正、右斎藤」と添え書きあり。写真裏に斎藤・福島の漢詩あり。斎藤は斎藤修一郎カ 記述法 写真	
1016	(和綴冊子)				数量 1冊	
1016-1	福島安正書簡 福島安広宛	福島安正	福島安広	明治20年11月15日	数量 1通 内容 ベルリンに東洋学校開設、井上哲次郎・桂林ら招聘される 記述法 ペン	
1016-2	福島安正書簡 福島貞子宛	福島安正	福島貞子	(明治21年) 11月21日	数量 1通 内容 大西軍医よりそちらの模様拝承。安正希図の件は定て石黒、斎藤等より聞及居候事。山県、桂両氏より安正の前途を苦慮せられ種々心切に申越され候に付先つ一時見合居候得共、一度ひ決心せし男子の鉄腸如何とも難思止。何れ当地の事情結果を得たる上にて再び可申出覚悟。 記述法 ペン	
1016-3	福島安正書簡 福島貞子宛	福島安正	福島貞子	明治23年5月15日	数量 1通 内容 藤井大尉より品物受け取る。新米12名の将校を合わせ部下26名となり多忙。 記述法 ペン	
1016-4	福島安正書簡 福島安広宛	福島安正	福島安広	明治24年6月25日	数量 1通 内容 兼ての計画に比すれば希望の旅行半減と相成実に遺憾不堪候。併し先此期を以て魯西亜、中央亜細亜北武、外蒙古、西比利亜、満州及び支那北方のみを終り帰朝し、後ち又々屈せず計画可仕心組。当地発程は明年一月と相決し居。 記述法 ペン	

福島安正関係文書目録

資料番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
1016-5	福島安正書簡 福島貞子宛	福島安正	福島貞子	(明治22年) 4月25日	数量 1通 内容 本所より牛込払方町への転居は大変に結構。山県大臣よりのお土産頂戴。 記述法 ペン	
1017	中島雄書簡 福島安正宛	中島雄	福島安正	明治37年6月23日	数量 1通 内容 自分は義和団事件の際の消失書類重修に従事してきたが、今回占領地支配についてお役に立つことあれば尽力したし 記述法 墨書	
2. 書類 (資料番号1018~1022)						
1018	大学南校生徒心得写	福島安正		明治3年9月	数量 1冊 内容 大学南校の生徒心得を福島安正が写したものの 記述法 墨書	
1019	準備金	福島安正		明治15年11月~ 明治17年11月	数量 1冊 内容 「非常準備金出入之部」「非常準備金支払之部」「準備金之部」「準備金支払之部」「旅行探偵費之部」 記述法 墨書 備考 和綴じ本	
1020	蒙古跋涉略記	福島安正	福島貞子	明治25年11月17日	数量 1通 内容 明治25年9月19日垂爾泰駅より庫倫までの旅行の報告 記述法 ペン 備考 洋紙貼付	
1021	漢詩類	福島安正			数量 1冊 内容 漢文・漢詩の控え 記述法 ペン	
1022	詩歌類	福島安正			数量 1冊 内容 「波斯歌」(漢詩、明治29年)、「十二絶勝漢詩」(李軒居士撰) 記述法 墨書・印刷 [蒟蒻版] 備考 「波斯歌」は『福島將軍遺稿』284頁にあり	
3. 日記 (資料番号1023)						
1023	日記 大正7年	福島安正		大正7年	数量 1冊 記述法 ペン	
4. その他 (資料番号1024~1029)						
1024	『福島安正君小伝及紀行梗概』	田村維則		明治27年11月23日	数量 1冊 記述法 印刷 [活版]	
1025	『福島將軍遺稿』	太田阿山 [著]、東亜協会 [発行]		昭和16年6月5日	数量 1冊 記述法 印刷	
1026	福島安正関係史料領収証	渡辺義彦	井上喜多郎	昭和12年4月2日	数量 1枚 内容 90円にて福島書簡などを売り渡しとの領収証 記述法 ペン 用紙 便箋	

福島安正関係文書目録

資料 番号	タイトル	作成者	宛先	年月日	内容・備考等	画像
1027	〔福島安正関係史料 関連メモ類〕				数量 6枚 内容 福島安正関係史料目録および福島安正人名 辞典切抜 記述法 鉛筆・電子式複写	
1028	包紙「福島文書」				数量 1枚	
1029	木箱				数量 1箱 内容 3段の箱。もと資料番号1001～1028番を取 納。	